

清里 まちづくり 広報

企画・編集・発行

清里まちづくり協議会 事務広報部



疫病退散



早くコロナが収束しまあようね

清里まちづくり協議会事務局／〒370-3573 前橋市青梨子町339 (清里公民館内) TEL 027-251-9005 FAX 027-255-0341

謹賀新年

新年のご挨拶

まちづくり協議会長 高瀬 照雄

新年を迎えましたが今年は「明けましておめでとう」と言えない現況下にあります。

去年は、新型コロナウイルスが世界規模で発生し、経済活動が停滞、そして人々の会合や移動が制限されました。このウィルス対策として世界中でワクチン開発が進められ、年末から海外数カ国でワクチン接種が始まっています。

しかし、コロナウィルスは感染するごとにタイプが変異して、武漢市のタイプからヨーロッパ型、さらにアメリカ型、ブラジル型等へと少しずつ変異してきております。日本で発生しているウィルスも同様に変異しているとのことで、使用するワクチンの有効性や副作用の検証も重要になっております。早く私たちが安全に接種できるように願っています。

また、私たちが活動するためには、安心した社会状況を形成することが大事です。感染しても無症状の人が多く存在して、感染拡大を起こす要因になっています。是非、三密を避け、消毒・手洗いをし、家庭内に持ち込まないように十分注意をしていただきたいと思います。

今年度の事業は中止状況にあります。今後はその時点の状況で、判断していきたいと思います。皆様の健康をお祈りして、これからの活動にご協力をお願い申し上げます。

コロナ対応注意情報

「新型コロナウイルス感染防止に関する対応について」

東京を始め全国において感染者(陽性者)が確実に増加傾向にある中、群馬県も過去最多の感染者数を記録。県指針に基づく警戒度も12月19日から全県を対象に最も深刻な「4」に引き上げられました。県民には、1月8日まで不要不急の外出自粛が要請されています。

皆様にも引き続き感染防止のための行動をとっていただくようお願いいたします。

「コロナ禍での生活の主な留意点」

- ① 県内外で不要不急の外出は避ける。(生活物資の買い出しや通勤、通院などは除く。)
- ② 3密(密閉空間・密集場所・密接場面)は避け、ソーシャルディスタンス最低1メートルを確保する。
- ③ マスクなしの会話、室内での大声や歌、呼吸が激しくなる運動は避ける。
- ④ 少しの外出でもマスク着用、こまめな手洗い、消毒を励行する。
- ⑤ こまめな換気と適度な湿度を保つ。

※不確かな情報に惑わされないよう気を付けて、感染者・医療従事者・大都市圏からの移動者等の人権には配慮してください。

清里地区の先人たち

10月1日の広報第58号では、清里の歴史や文化を知ってもらおうと地域の文化財についてお知らせしました。引き続きまして今回は、清里地区の先人たちについて掲載します。

① 神保源十郎(池端町)



明治期以前から清里村内を始め各地で武術が盛んであった。なかでも池端の神保源十郎は門弟2千人といわれ、その名は近郷近在に鳴り響いた柔術家であった。この天神真楊流柔術師範、神保源十郎柳風齋源正義を顕彰した碑が池端町一本松八幡川沿いに建立されている。

② 齋藤幸吉(池端町)

齋藤家は代々大農で幸吉は勤勉実直で養蚕業に全力を傾けた。明治26年に群馬製糸会社原組を設立、33年甘楽社と合併し甘楽社清里組の支部長となり日夜社業の隆盛と蚕糸業の発展に努めた。その功績を後世に伝

えるため有志が幸吉の自宅庭先に彰功碑を建立した。



③ 葛西玄冲(上青梨子町)

上青梨子三ツ屋で三代にわたり医を業とし名医とうたわれた。初代玄



葛西玄冲の墓

冲は医業の傍ら書も素晴らしく、当時の上野三大書家に数えられるほどであった。二代目玄冲も医術に優れ、文化年間には「耕楽舎」という寺子屋を開き、子弟達に晴耕雨読を実践させた。三代目の玄冲は、前橋に出て医者として大成。名医として多くの日から慕われた。

④ 津久井磯(旧姓関根(青梨子町))

磯は24歳の時前橋の産科医の津久井文議と結婚したのをきっかけに産科医の夫の助手として産婆の道を進んだ。明治3年、産婆として独立したが、医学の基礎があり、そのうえ研究熱心なので県下に名が広く知られるようになった。同時に近代的な産婆の養成にも尽力し、明治21年に「群馬県産婆会」ができた際、磯は初代会長として職務にあたった。その後開かれた「産婆講習所」は、3年で終わったが、40人の卒業生を世に送り出した。

⑤ 松下政右衛門(青梨子町前原)

慶応2年頃から養蚕飼育の研究に没頭。明治11年に研究成果を「暖爽育」として近隣に指導し、明治21年5月



「協同適蚕組織」を結成、知事認可を得て「私立適蚕流(流養蚕所)」を設立、優れた養蚕指導者として全国に知られた。明治21年のパリ万博で日本を代表し出品した政右衛門の繭は優秀の褒賞を得て国際的に評価される。養蚕の傍ら俳句を好み後輩の指導に当たるなど文化面でも活躍した。



松下政右衛門の墓

⑥ 井草太郎右衛門(青梨子町前原)

太郎右衛門の父は、桑園の改良・育蠶(蚕)の方法に心を砕いていたが、太郎右衛門はその跡を継ぎもっぱら蠶業の進展・研究に没頭し、苦心の末「焚火育」という方法を編み出し世間に広めた。明治14年、横浜で開かれた第1回内国共進会に出品した繭が二等賞となり全国に知られた。県下だけでなく日本の蠶業界の貢献者として崇められた。

⑦ 木暮喜祿(自榮(清野町))

木暮喜祿は、幼少から学問を好み渋川の堀口藍園に漢詩・漢籍を学んだ。後高崎の高橋寛斎に数学を修めた。さらに箕輪の龍門寺住職牧野再龍に唐歌を、湯上村の狩野利房に和歌を、下館士族奥山金剛に詩学を学ぶなど当時一流の人々からの習得に努めた。特に能筆家として知られ、先の神保



源十郎の顕彰碑の他齋藤幸吉翁、総社神社の奉額、清野八幡宮の献額の書も喜祿の筆によるものである。忠魂碑、記念碑など確認されているものでも33基にのぼっている。また地方自治にも尽力し、清里村長、県会議員の他、清里村農会長、軍友会長等歴任した。

⑧ 高橋マキ(清野町)
幼少期から成績優秀で明治40年群馬県立女子師範学校(現在の群馬大学)卒業後、東京女子高等師範学校(現在の御茶ノ水女子大学)に入学。卒業後、師範学校で女子教育に従事していたが、大正14年、欧米の教育事情に感銘を受け、御茶ノ水女子大学の近くに貞静学寮(学校)を創設した。
戦後に学校を再興し、校名も貞静学園高等女学校とした。建学の精神は、「至誠、和敬、慈愛」。現在も、貞静学園中学・高等学校、貞静学園短期大学、貞静幼稚園を擁する学校法人「貞静学園」にその精神が引き継がれている。

清里地区の動画

今年はコロナ禍で人が集まらない状況が続き、まちづくりの活動もほとんどが中止になってしまいました。そんな中、清里地区で行われている活動の一部を動画で紹介합니다。スマホでQRコードを読み取るか前橋市～YouTube～地域づくり活動(生活課)もしくは清里公民館で検索しご覧ください。

まちづくり動画紹介

1 清野町野良犬獅子舞奉納

清野町の八幡宮に慶長年間(1600年頃)から伝わると言われる獅子舞。流派は「関白龍天流」で、毎年10月の八幡宮秋祭りに奉納されます。現在、地域の伝統芸能として、大人だけでなく夏休み期間には子どもたちも練習に打ち込み地域全体に引き継がれています。



この野良犬獅子舞は、昭和48年9月に市指定重要無形民俗文化財に指定されました。

(3分26秒)



公民館動画紹介

1 紙工作 しりとりキューブを作ろう



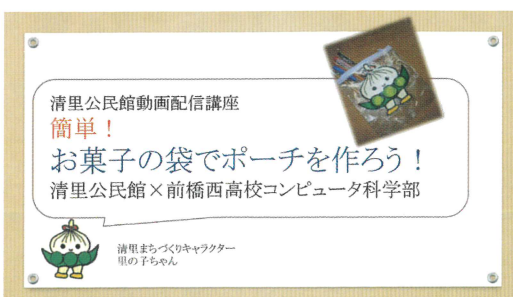
方眼紙で作った立方体(1辺3cm)4個に、しりとり遊びができる可愛い絵を貼ります。キューブを順番通りに動かすと絵が次々に変わる楽しい紙工作です。

図書館清里分館スタッフが講師となり、撮影と編集は清里公民館が担当しました。

(6分19秒)



2 お菓子袋でポーチづくり



お菓子の空き袋を利用したポーチ(小物入れ)作り。ファスナーは両面テープで貼り付けますので、安全で手軽です。出来上がったポーチは、お菓子入れ、ペンケース、マスクケースなど用途も様々。

前橋西高等学校コンピューター科学部と清里公民館の合同企画で同部が動画を作成しました。

(5分33秒)



清里の花だより



1 花はな花壇の土留め改修

令和2年はコロナ禍で、オーブンガーデン、視察研修などほとんどのイベントができませんでした。懸案であった老朽化した花はな花壇の土留めを改修できました。市から助成をいただき、地区内の笠井工業さんにしつかり施工してもらいました。立派な土留めで、これでもう県道に土が流れ出す心配がなくなりました。本当にありがとうございます。

花はな花壇には日よけやベンチも設置してあります。そのベンチの周りに張ってあるイワダレ草は、踏まれた方が良く育つという特徴があります。皆さん、どうぞ遠慮なく踏んでゆっくり休んでください。

2 清里花はな花壇整備の動画

まちづくり協議会の花いっぱい運動部会では、オーブンガーデンなど花を通じて楽しみながら環境美化と地域の皆さんとの交流を図っています。地区内には3つの花壇があり、部会員を中心に定期的に除草や枝の選定、花苗の植え替え作業を行います。今回は、花はな花壇を中心に、花の片付けと花苗の定植作業の動画を作りました。ご覧いただき、花を育て咲かせる作業を一緒にしていただけたら嬉しいです。

(4分46秒)



事務広報部会あいさつ

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。今年も少しでも多くの方々に本紙を見ていただけるよう工夫を凝らして地域の状況をお知らせしたいと思います。

さて、今年度は、コロナ禍の影響で「ふるさと祭」を始めほとんどの行事が中止となり活動報告ができない状況で「まちづくり広報」の休止も検討しましたが、紙面では特集を組み、また動画を作成することを試みました。

【57号(7月1日発行)】

地域の花写真をテーマとして花いっぱい運動部会に協力していただき、たくさんの方々の花の写真を掲載しました。

【58号(10月1日発行)】

清里地区の文化財をテーマに各所の神社、石造物などを特集しました。

【59号(1月1日発行)】

清里地区の先人に焦点を当て、清里地区出身の偉人の業績を紹介しました。

清里まちづくり協議会は、本部役員として各町の自治会長、各種団体の長、事務局長等で構成されています。

7つの専門部会(花いっぱい運動部会、社会福祉部会、食育部会、まちづくりだんべえ部会、事務広報部会、子ども八木節部会、ふるさと祭部会)の皆さんと共に地域の皆さんを巻き込んで今年も活発に活動したいと思います。

編集後記

昨年は新型コロナウイルスで始まり、世界中が新型コロナウイルスに振り回された一年であった。その様子がニュースで報道されない日はなかった。

感染状況も相変わらず増加傾向である。日常生活においては、

自粛。

中止。

制限。

時短。

政府や自治体もあの手この手で経済対策を施しているが(経済消費)活動が動き出せば、コロナ陽性者数も増し医療が逼迫される。経済対策を強化すれば、感染拡大につながるという悩ましい状況である。

一説によると、新型コロナウイルスはインフルエンザなどと同様に気温や湿度が低いほど流行しやすいとか。

だからといって冬の方が夏より増加するとは限らず、増加するかどうかは、私たちの意識と感染対策によって大きく変わるはず。

Withコロナ時代。

「3密」を避け、感染対策をしつかりと続けていく事が増加させないためには重要である。不自由な時代になったもんだ。

世界中の景気が低迷している昨今、新型コロナウイルスのワクチンに大いに期待しよう。

(T・T)